熊本県立牛深高等学校　平成３０年度学校評価表

１ 学校教育目標
教育方針（校訓）：「敬愛」・「勤勉」・「創造」 ◎育てたい生徒像：　志高く、夢に向かって努力を続ける生徒 ～自他を大切にし、健全な心身を育成し、考える習慣を持つ～

２ 本年度の重点目標
（１） 人権尊重の精神を涵養する教育活動の推進 （２） 豊かな人間性と品格を備えた生徒の育成 （３） 生徒の未来を切り開くための学力の充実とキャリア教育の実践 （４） 特色ある教育活動の実践と工夫による開かれた魅力あふれる学校づくり

３ 自己評価総括表

評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
大項目	小項目					
学校経営	学校改革のさらなる推進	自己更新力のある組織としての成長	・組織目標の理解と受容（目標値：学校評価アンケート関連項目上位評価割合[職員100%、生徒・保護者80%]） ・組織内コミュニケーションの円滑化(目標値:職員アンケート関連項目評価の着実な上昇[年度内比較]) ・チーム学習(分掌部・年次部)の推進(目標値:職員アンケート関連項目評価の着実な上昇[年度内比較])	・組織目標の重点化と焦点化（誰もが、分かりやすく、覚えやすく、納得できる目標） ・分掌部、学年部ミーティングの実施(週時程内外) ・ティー・ミーティング（職員研修）の実施 ・学校評価の到達状況の定期点検（学期末）による評価と改善(分掌部･年次部)	B	組織目標の理解と受容について、アンケートの結果としては目標に届かなかったものの、学年部や分掌部でのミーティング等で十分なコミュニケーションがとれ、各学期末に成果と課題を検討し、次の学期の取組につなぐことができた。 次年度に向けて、一つ一つの課題について、その対応を十分に確認しながら取り組める組織作りを進めたい。
	働き方改革の推進	仕事と生活の調和	・時間外勤務の縮減（目標値:前年同月比-20%/全体） ・年次有給休暇の取得率の向上(目標値:付与日数の35%以上/人) ・仕事と生活の調和がとれていると感じる職員の増加(目標値：職	・業務削減計画の作成と進行管理(各分掌部) ・勤務時間縮減目標の設定とセルフマネジメント（各月、各職員） ・情報共有システム(ゆうnet､校務サーバ)の積極的活用 ・年休取得計画の作成と管	C	時間外勤務の縮減は前年比－７％で、月当たり８０時間以上の超過勤務時間のある対象者は－１０％となり、意識の変化は見られた。 年次有給休暇の取得率は２４％で、１人あたりの平均取得日数は８，７日で、いずれも昨年度並みであった。 働き方改革については本校の教育目標に基づいた各分掌部の取組と切り離して考えることができないので、新たな切り口か

			員アンケート関連項目前年度比０．５ポイント上昇／５段階平均)	理（各職員） ・人事評価（業績評価）への働き方改善の位置付け ・一斉休業日の指定(長期休業期間)定時退勤日の拡充 ・ワークライフバランス職員研修の実施		ら年間計画の見直しが必要である。
魅力創造発信	魅力創造	「牛深高校オンリーワンの魅力」づくり	・生徒が総合学科高校生として自覚を持ち､総合学科高校をより一層理解する。(目標値:学校評価アンケート関連項目[キャリア意識項目：生徒90%][系列･選択科目指導:生徒90%])	・キャリア教育（「総合的な学習の時間」「産業社会と人間」）の充実 ・総合学科高校の生徒として物の管理や連絡確認など自分たちで行う。	B	学校評価アンケートにおいてキャリア意識項目が生徒８１%､系列･選択科目指導が生徒８８%と目標値を上回ることができなかった。キャリア教育委員会を中心に１年次の｢産業社会と人間｣､２､３年次の総合的な学習の時間の活性化を目指していきたい。
	魅力発信	「牛深高校オンリーワンの魅力」の理解	・牛高の魅力「多様な選択科目｣｢少人数の学習指導｣｢充実した進路指導｣の周知(目標値:中学校アンケート関連項目認知度の着実な上昇) ・牛高への進学を希望する中学生数の着実な上昇	・総合学科発表会、体験入学の積極的ＰＲ ・専門教科の魅力のＰＲ	B	総合学科発表会を通し、中学生、中学生保護者、地域住民に、本校の魅力と、総合学科高校の特色の理解を促すことができたものの､来場者が初年度である昨年と比較して約４０名減であった｡本校の魅力を直接に伝えることのできる機会であるので､来場者の増加に向けて､広報活動や中学校訪問など一層の手立てが必要である。
	地域連携と人材育成	地域との連携による教育活動の充実	・学校と地域との連携を図り、地域へ貢献する態度を育成する。（目標値：地域や大学、企業等との連携機会の増加）	・天草地域の様々なイベント、ボランティアへの積極的参加 ・地元企業と連携した商品開発､販売実習 ・大学、自治体と連携した地域創造学習	A	牛深ハイヤでの全校総踊りをはじめ、海族祭での販売実習、総合学科発表会での地元保育園との合同発表など、昨年以上に地域との連携機会を設けた。 昨年開発した青春まきは地元の製菓店の協力のもと新パッケージを制作し、地域の祭の模擬店で販売し、体験入学や総合学科発表会で配布したところ、好評を博した。
学力向	家庭学習習慣の形成	授業と家庭学習を一体化さ	・家庭学習時間調査データの蓄積と活用	・考査前に加え、不定期での家庭学習時	B	昨年度から積み重ねた家庭学習時間のデータ活用をすすめ、シートの改

上		せるプランの構築	・学校評価アンケート（生徒）の関連項目前年度比＋８％	間調査の実施 ・単元の指導計画、予習、振り返り、テスト（小テスト・定期考査）が連動した授業サイクルの推進		訂や長期休業中の課題への意識づけなど学習習慣の定着に向けて対策を講じた結果学校評価アンケート（生徒）の家庭学習への意欲、習慣化の項目において、［５２％、前年度＋２６％］と目標を達成できた。 しかしながら、依然として高い数値ではない点や年次ごとの数値のばらつきなどもあり、次年度以降も継続した取り組みが必要である。改善案としては見通しを立てて家庭でも学習に臨めるようシラバスの充実に新たに取組む予定である。
	教科指導力の向上	わかる授業の実践	・学校評価アンケートの関連項目(生徒)90%以上、(職員)95%以上の意識の差、前年度比－１％～－６％	・教育センター指導主事等の活用 ・公開授業、授業評価、自己評価がリンクした授業改善システムの継続実施 ・行事の精選、予定の早期提示による教材研究・授業時間の確保	A	学校評価アンケートでは、学校の学力向上への取組状況の評価において、[職員100%、生徒90%]という結果が見られた。意識差は未だあるが目標を達成できている。外部講師の招聘、授業作りの指針や本年度改訂した授業改善システムが機能した成果と言える。一方授業評価アンケートにおいて、知識の活用に関しては88%という数値であり全項目平均の92%を下回っており、この点の改善が課題である。
キャリア教育	進路指導の体制の整備	生徒が夢を叶えるサポート体制の構築	・進路希望の100%達成 ・進路指導活動の計画的実施と充実化(目標値:関連項目前年度比[職員]５ポイント、[生徒・保護者]３ポイント上昇) ・進路情報の適切な提供(目標値:関連項目前年度比[職員・生徒・保護者]５ポイント上昇)	・進路についての個人面談の実施 ・進路指導についての職員研修実施 ・進路指導の計画的組織的実施、その学期毎の振り返りと課題抽出 ・模擬試験結果データの分析や求人票一覧の改善 ・進路だよりの適時発行	B	２月４日現在、生徒の93%が進路先を決定している。進学や就職を希望している生徒が、面接指導や小論文指導を受け、第一希望の学校や企業に合格している。特に、公務員試験を受けた生徒たちが天草市役所、県警、自衛隊と複数合格した。 進路指導活動の計画的実施化、進路情報の適切な提供、が目標の数値に届かなかった。 計画を立て、その通りに実施はしているが、模擬試験の結果データ分析の定着を図り、取り組みを充実させていきたい。 求人票のPDFを作成し、データの構築に努めた。就職の内定率は上昇しており、離職防止の取り組みにも力を入れたい。

	将来設計能力の育成	自己理解の深化及び適切な勤労観・職業観の育成	・働くことの意義についての理解 (目標値：アンケート関連項目前年度比[職員･生徒・保護者]５ポイント上昇) ・表現する、伝える力の育成 (目標値：アンケート関連項目前年度比[職員･生徒･保護者]５ポイント上昇)	・専門職による学校や職業説明会の実施 ・インターンシップ事前・事後指導の徹底 ・ＬＨＲや産社、総学における進路についての活動の充実化を図る ・進路についての個人面談の実施 ・面接試験指導、小論文指導の計画的実施	B	年間計画の通り、面談や、面接指導、作文指導、職業説明会、進路講演会等を実施することができた。 産社や総学の時間の中で、進路についての活動をさらに段階的、計画的に取り組んでいきたい。 ・ポートフォリオの活動を開始することができた。生徒が主体的に活動し、表現力を高められるように改善や工夫を重ねたい。
生徒指導	牛深高校生としての自覚と誇りを持って行動できる生徒の育成	基本的生活習慣の確立	・１年間、無遅刻・無欠席を目指して意欲的に学校生活を送る （目標値：H29年度より精勤者・皆勤者数の５％アップ） ・服装頭髪等の整容に努め、けじめのある生活を送る （目標値：頭服検査の再検者０）	・生活習慣を確立するための家庭への情報提供と連携 ・明るく元気な挨拶ができるまで繰り返し指導する ・定期検査及び事前指導を通して自らを客観視できるように指導する ・全職員での指導を徹底する	B	年次ごとに担当者を決めるなど、きめ細やかな指導に取組み、改善に向け職員全体で日々情報を共有し集中して指導ができている。 例年以上にインフルエンザの対応に苦慮したが、長期化した要因として、本校生の真面目さの表れとも言えたか。 １年次、長期休暇明けに違反者が多く、傾向を捉えた指導に工夫が必要であった。 時宜を捉えた集団指導や個人指導を徹底した結果、目標には届かなかったが、概ね良好であった。
		主体的な生徒会活動	各種委員会及び部活動の活性化 (目標:委員会の月例会議の実施) (目標値:部活動加入率100%)	・表彰制度の創設 ・会議の定例化(各種委員会･部活動顧問会議) ・保護者との連携	B	具体的な方策の実現には至らなかったが、各委員会独自の動きは活発で、特に環境管理面の改善に効果があった。 新入生増に伴い、茶道部の活動再開や体育館競技の活性化など良い面と、各部それぞれに課題を抱える面があった。改善に向けた研修会をマラソン大会後に行った。
	交通安全・防犯意識の定着	交通安全・防犯教育の充実と指導の徹底	・交通事故・違反”0”・二重ロック実施率の向上(目標値:100%) ・個人ロッカー施錠率の向上(目標値:100%)	・定期的な検査、校内外の巡回指導 ・交通ルールの徹底 ・二重ロック及び校内ロッカー施錠の点検	B	検査及び巡回指導前後は改善し、施錠を心がける生徒も増加しているが､目標値100%の達成には至っていない。その他の面の指導と併せ継続指導していく。

	情報安全・情報モラル教育の推進	情報安全・情報モラル教育に関する指導強化	・携帯端末機器等の危険性を理解し、使用ルールを守る (目標値:12月実施「心のアンケート」問17･18の改善) ・フィルタリング(目標値:12月実施「心のアンケート」問19の100%) ・個人情報保護(「非公式サイト」書込み０)	・学校と家庭との連携を密にした指導 ・「携帯電話における牛深高校10か条」の周知 ・関係機関と協力した講演会等の実施	C	携帯端末機器等の、家庭での「約束事を作る」「利用時間を短縮する」「フィルタリングの設定」など各項目に１割程度の改善傾向があった。 「非公式サイト」等の書込みについては、今年度も県のパトロールより、６件程度の連絡があり、個別指導を実施した。 中高連携会議でも必ず話題に挙がっており、「保護者との連携」に苦慮されている。 携帯端末の校内使用については今年度 10 件 10 名の指導を行った。
人権教育の推進	人権を守ろうとする意識・意欲・態度の育成	・生徒・職員の人権感覚の高揚および人権に関する知的理解の促進	・人権が尊重される学習環境・生活環境の構築 ・職員の人権感覚の高揚(目標値：アンケート関連項目【職員研修】職員９５%)	・生徒の実態に基づいた人権ＬＨＲの充実と啓発に係る人権作品の募集と展示 ・生徒理解、コーチング研修の実施	B	人権教育ＬＨＲ（就職差別、結婚差別、部落差別の歴史、ネットに潜む差別）において生徒が自ら考え、自分の言葉で意見をまとめることで、差別問題を自分のこととして捉えることができた。 職員研修(就職差別、ハンセン病、法令)において人権に関する知的理解を図ったが、アンケートにおける職員研修の充実では 82%と目標数値には届かなかった。次年度は更に充実した研修の実施が求められる。
	自他の“いのち”を大切にする心の育成	自尊感情・共生の精神の高揚	・自他の”いのち”の尊厳を深く考え、生きていることのありがたさを実感させる授業の実施 ・生徒一人ひとりが互いを認め合い、自己肯定感を高めあう環境づくり	・“いのち”の尊厳に関する社会的課題について考えさせたり、自己理解や他者尊重を促したりする教科学習の実践	A	人権教育ＬＨＲ（水俣病、デートＤＶ）を通じて、“いのち”の尊厳について考え、自他を共に尊重する心を育むことができた。 本校「授業づくりの指針」により、職員一人一人が人権に配慮した授業を行うことができた。 アンケートの結果では職員、生徒、保護者ともに「人権への配慮」の項目で、90%以上の高い結果を出すことができた。
いじめの防止等	いじめの未然防止	自分の存在と他人の存在を等しく認め、お互いの人格を尊重する態度の育成	・他人の気持ちを共感的に理解できる豊かな情操とコミュニケーション能力を身につける ・自己有用感や充実感が感	・生徒に関する情報の収集及び共有 ・日頃の見守り活動 ・生徒中心の実践活動 ・保護者との連携	A	「心のアンケート」問１は、４項目すべてにおいて５%以上の改善があったが、下位へのチェックも必ずあった。 今年度新規導入された「匿名通報アプリ」の運用も含め、あらゆる場面を通じ、全職員で見守り

			じられる(目標値:12月実施「心のアンケート」問１の改善)			活動を実施しており、生徒達は、日々明るく元気に教育諸活動に熱心に取組んでいる。
	いじめの早期発見	生徒に早い段階から的確に関わり、いじめを隠したり軽視したりすることのない、積極的ないじめの認知	教職員の「気づき」力の向上 （目標値:「学校評価アンケート」問13・21の100%）	・本校独自のアンケート調査の実施（年３回） ・相談窓口の周知と相談しやすい環境づくり ・定期的な個別面談や教育相談会議の実施と職員間の情報の共有及び連携	A	学校評価アンケートの結果は 100%とはならなかったものの、例年並みの高評価であった。(職員は２項目とも 100%を達成した。) 教育相談委員会を定期的に開催し、課題を抱える生徒への対応について協議し、関係者で情報共有することができた。
	いじめへの対処	いじめを把握後の適切な対処	教職員の対処スキルの向上(目標：対処後の「心のアンケート」問5及び「学校評価アンケート」問13の数値改善)	・職員研修[教育相談･いじめ対処]の実施 ・いじめ防止基本方針及び重大事態への対応ﾏﾆｭｱﾙの周知 ・対処の組織化(いじめ防止対策委員会	A	職員研修を実施し、対応マニュアルを確認し、職員一人一人が当事者としてとるべき対応を確認した。 いじめ防止対策委員会を定期的に開催し、協議内容を教育相談委員会や各年次と共有した。 アンケートの結果は改善の傾向が見られた。
環境教育の推進	環境に対する意識	校内外の清掃・整頓	清掃及びゴミの分別について、生徒が主体的に取り組めるよう、指導する。	・毎日の掃除場所を一定期間固定する。 ・定期的に清掃について振り返りをさせ、環境美化の意識付けを行う。	B	掃除場所の固定と学期毎の振り返りをし、環境美化への意識付けが行えた。ゴミの分別についても、生活委員を中心に、各年次で分別回収ができていた。 時々、評価しあうことで改善及び継続につながった。しかし、日常的に衛生を保つなどの意識を持てていないため、今後も継続した振り返り確認をすることで環境への意識を高めていく必要がある。
	ボランティア活動	校内外のボランティア活動への積極的な参加	ボランティア参加者数を増やす。 （目標値：H29年度延べ３２６名→H30年度延べ３５０名）	・放課後ボランティア活動を学期に２回以上実施 ・校外のボランティアについて呼びかけを行い参加を促す。	B	校外ボランティアの精選を行い、ボランティアの受け入れ体制の整備をした。校内での放課後ボランティアの回数は全４回と目標に達しなかったが、ボランティアの参加者は多く、校内外合わせて、３４３名（１月末現在）であった。

保健教育・保健管理の推進	生活習慣の確立	自己管理能力の育成	・健康観察の継続 ・保健委員を中心とした、クラス単位での生活習慣の改善 ・学校評価アンケート(生徒)の関連項目前年度比＋６％	・生活習慣アンケートの分析と活用 ・保健委員によるクラスの健康管理及び月保健目標の提示	B	保健委員を中心に、生徒の健康管理を行うことができた。目についてのアンケート集計をし、学校保健委員会で検討して、保健だより等で生徒に還元することができた。 一方、学校評価の関連項目では、＋５％に留まり、保健教育の面では目標に及ばなかった。
	健康相談	相談活動の充実	・生徒支援体制の確立と強化 ・学校評価アンケート(生徒)の関連項目前年度比＋４％	・ＳＣ等外部機関との連携 ・相談活動の記録及びその情報共有を確実に行う。	B	各年次との連携が難しかったが、必要な生徒への対応は外部機関を含め、慎重に進めることができた。 学校評価アンケートの感染症関連では目標を達成したが悩み相談については昨年度を下回った。
学校安全・防災教育の推進	学校安全の取組	危機管理能力の育成	・避難訓練、救急救命法等の研修の活用 ・防災意識の高揚（目標値：身の回りの防災対策を施すもしくは施す予定である職員・生徒・家庭の割合を全体の７０％以上）	・防災についての危機管理マニュアル確認徹底 ・災害時に生かせるよりリアルな避難訓練の実施 ・育友会と連携した防災関連講習会の実施 ・職員研修の実施 ・防災関連リーフレットの作成・配布 ・風水害、降雪時等の注意喚起を促す連絡の徹底	A	救急救命法演習や２回の避難訓練、３回のショート訓練を行うことで生徒・職員ともに災害時の対応について考える機会となった。また、防災ＬＨＲや防災研究授業等を通して生徒に災害を自分事として捉えるきっかけを作ることができた。 育友会と連携して防災教室を実施し、新聞紙スリッパや段ボールベッドなど避難生活について体験する機会を持つことができた。 大規模災害時の対応についての校内外フローを作成し、風水害等の対応について周知することができ、また、実際に活用することができた。
地域連携	防災型コミュニティスクールの推進	地域住民や関係機関との連携	・危機管理（防災）マニュアルの充実 ・大規模災害時の避難及び避難所についての理解・周知	・地域、関係機関と連携した防災行事（避難訓練等）の実施と人材の活用 ・学校運営協議会を実施 ・避難所運営マニュアルの作成 ・避難所等指定に向けた市区町村協議の実施	A	初めて本校主催で実施した合同避難訓練は、地元紙に取り上げられるほど質の高い訓練であった。一方で昨年度からの目標であった地域住民との合同訓練は実施できなかった。 学校運営協議会は３回実施し、避難所運営マニュアルの検討や本校を避難所として使う場合の施設利用計画について検討し、万一の対応について周知することができた。

図書館教育の充実	読書センターとしての役割	・読書習慣の定着 ・将来にわたる読書習慣の涵養 ・図書館利用の活性化	・貸出冊数生徒一人あたり１５冊 ・朝読書の徹底と充実	・全職員で朝読書に取り組む環境を作る ・世の中の話題や生徒のリクエストに応じた図書の購入 ・図書館内外の掲示や広報による利用促進 ・図書委員会活動の活性化（館内装飾や掲示を行い、あわせて活動の様子をＰＲ。天草地区生徒図書委員研修会の開催）	C	学校評価アンケートの関係項目では、朝読書を通じて読書の習慣化ができていると回答した生徒が昨年度の６６％から７７％に増加した。しかし、生徒一人あたりの貸し出し冊数は、１１．６冊から１０．４冊と低下し、目標を達成することができなかった。朝読書の巡回を行っているが、朝読書への取り組みが読書の習慣化に繋ぐことが課題である。朝読書への取り組みはクラス間で差があり、共通理解が必要である。 図書委員会では、７月に天草地区生徒図書委員研修会（会場校）の開催、ブラックボードを活用した館内展示、文化祭参加など活発な活動ができた。
	情報センターとしての役割	・情報収集能力の育成 ・授業との連携	・図書館利用授業時数：１００時間以上	・教科や各部と綿密な連携を図り、必要とする資料を事前に準備するとともに、生徒の調べ学習を支援 ・状況に合わせた適切な資料（図書、新聞紙、インターネット等）や情報を取捨選択、活用できる能力の育成 ・授業との連携（資料の準備・提供、成果物の展示）	B	図書館利用授業時数は１７８時間であり、書籍や新聞、インターネットを活用した利用があった。学校評価アンケートの関係項目では、図書館を活用して情報を収集できると回答した生徒が８５％で前年の８０％をやや上回った。なかでも、３年次生の回答は９０％と高く、各教科の授業での積極的な利用の成果が結びついたと考えられる。 今後は、１・２年次の授業でも一層図書館利用が進むよう、教科や各分掌部と連携し、十分な支援ができるよう、資料構築に努めていきたい。

４ 学校関係者評価

教育目標、重点目標に対して充実した取組がなされており、自己評価については妥当であり、「成果と課題」も適切に整理されている。

授業や行事においては、少数精鋭できめ細かな指導の成果をうかがうことができる。全国規模で活躍する郷土芸能部や地域でのボランティア活動など､地域への貢献・活躍が目立っており、牛深高校の存在感は大きい。

しかし、活躍する生徒の確保が必要であり、そのために牛深高校のよさをどのように地域に訴えていくかが課題である。進学にしても部活動にしても地方は不利だという保護者の意識をどう変えていくか。中学校の先生方に地域をもっと知ってもらう必要もある。

次年度も、地域の中での存在感をさらに高める取組に期待しており、保護者、地域の代表として参加している我々関係者も積極的に応援していきたい。

５ 総合評価

学校の教育目標について、その実現を目指し、本年度、本校独自で「授業づくりの指針」を作成し、公開授業･研究授業で活用を図りながら、日常の授業でも取組を進めた。他校からの評価も高く、参考にしたいとの要望もあった。

本年度の重点目標については、自己評価総括表を踏まえると次のとおりである。

（１） 人権尊重の精神を涵養する教育活動の推進
大項目「いじめの防止等」及び小項目「自他の“いのち”を大切にする心の育成」等の評価を総合して、人権尊重の精神に基づく各種教育活動を適切に展開し、生徒の成長を促すことができ、職員についても意識を高めることができた。

（２） 豊かな人間性と品格を備えた生徒の育成
大項目「いじめの防止等」及び小項目「ボランティア活動」等の評価を総合して人間性の育成には評価できるものとなった。

（３） 生徒の未来を切り開くための学力の充実とキャリア教育の実践
学力の充実に関しては、小項目「家庭学習習慣の形成」「教科指導力の向上」ともに一定の成果が見られた。大項目「キャリア教育」及び「魅力創造発信」の評価を総合して、生徒のキャリア意識の育成の点で実践上、成果がみられた。

（４） 特色ある教育活動の実践と工夫による開かれた魅力あふれる学校づくり
大項目「学校安全・防災教育の推進」及び「地域連携」、小項目「ボランティア活動」及び「地域連携と人材育成」の評価を総合して、開かれた学校づくり、魅力あふれる学校づくりの両面で、大きな成果がみられた。

６ 次年度への課題・改善方策

学校教育目標に向け、重点目標に沿った取組の推進は十分行われ、成果も上がったとみているが、本校の教育活動の魅力が中学生及びその保護者に伝わっていたかという点で課題が残る。次年度に向けては、中学生との交流をはじめ､中学校との連携に力を注ぎたい。

小項目において「働き方改革の推進」については、開設科目が多く教材作成に時間の確保が必要な中、教材共有のシステムづくりに取り組んだが、さらに意識改革が必要である。情報モラル教育や読書活動等に関しては、職員が共通理解のうえ通常の教育活動の中で取り組めるよう環境作りをしていく必要がある。